

<金標準、雇用統計を受け利下げ観測の高まり・・・>



(出所：オアシス)

週末の雇用統計で非農業部門雇用者数が 20.6 万人増となり、また 4 月、5 月の 2 ヶ月間で 11.1 万人の下方修正を示しながら、失業率も 4.1% へ上昇している。また平均時給は前年比で前月の 4.1% から 3.9% へ低下するなど景気抑制を示す動きを見せている。そのため 9 月の利下げ確率が 76% まで上昇するなど、今週のパウエル FRB 議長の半期に一度の議会証言で更なる利下げに対する姿勢が示される様であれば、金価格は高値追いを示す動きに思える。またインド中央銀行の 6 月の金準備高が 2022 年 7 月以来の 9 トンと大幅な増加を示し、24 年は 37 トン増の 841 トンと明らかにしている。

特に為替市場においても円ドル相場は、一時 161.95 円まで円安が進み、日銀の介入警戒感も強まる中で、円建て金価格を下支えする要因に結び付いている。

そのため金標準先物は、雇用統計を受けると 5 月 20 日の高値 12283 円を超えて 12389 円まで高値を試すなど、今週は更なる高値を試す値動きに注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI でも短期が切り上げ、長期も切り上げて +80% 以上を維持するなど強気の継続を示しており、値ごろ感で安易な売りは避けた方が良いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,550,000 円(2024 年 7 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2024 年 7 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>